
本学における F D 活動の一環として実施している「授業アンケート」へのご理解とご協力を感謝申し上げます。

今回の F D ニュースでは、2023 年度後期授業アンケートについて報告いたします。

1. 2023 年度教育学部後期授業アンケートについて

— 受講生の関心はわかりやすい授業にあり —

1. 調査の概要と実施状況

実施期間：2024 年 1 月 22 日（月）から 2 月 2 日（金）

実施科目：受講登録 6 名以上の全授業科目

対象科目数：371，回収科目数：339（全白紙 3 部除く）（実施率：91.3%）

実施科目履修登録者数：12582，有効回答数：9913（回答率：78.7%）

2. 潜在的プロファイル分析を用いた調査対象科目の特徴

FD ニュースに掲載されたこれまでの分析の多くは、全対象科目を込みにした単純集計が主となっていました。例えば、Q2「この授業を受講するにあたってシラバスを参考にしましたか」という設問に対して「4：とても参考にした，3：やや参考にした，2：あまり参考にしなかった，1：ほとんど参考にしなかった」という各カテゴリに何%が該当したのかを掲載してきました。

このやり方は、各設問の特徴を端的に表現することができ、わかりやすさという点では意義がありますが、設問間の関連性や受講科目の全体的な特徴をダイナミックに把握することができません。300 を超える各授業科目のデータが蓄積されるのに若干勿体無いようにも感じます。

そこで今回は、潜在的プロファイル分析という多変量解析を用いて、回収した 339 科目を各設問の回答パターン（プロファイル）の特徴を紐解いていこうと思います。

授業アンケートの設問は以下の 13 項目を用いました。

Q2：この授業を受講するにあたってシラバスを参考にしましたか

Q3：この授業へのこれまでの出席状況を教えてください

Q4：この授業一回分の予習，復習，レポート，課題等に取り組むため，平均してどの位時間を費やしましたか

Q5：あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか

Q7：あなたはこの授業を受講してどの程度満足しましたか

Q8：あなたはこの授業で取り扱ったテーマ・領域に興味を覚えましたか

Q9：この授業には，教員になるための意欲を高める内容や取り組みが含まれていたと思いますか

Q10：あなたにとって，この授業の難易度はどうでしたか

Q11：この授業は体系的でよくまとまっていたと思いますか

Q12：あなたにとって，この授業の説明はわかりやすかったですか

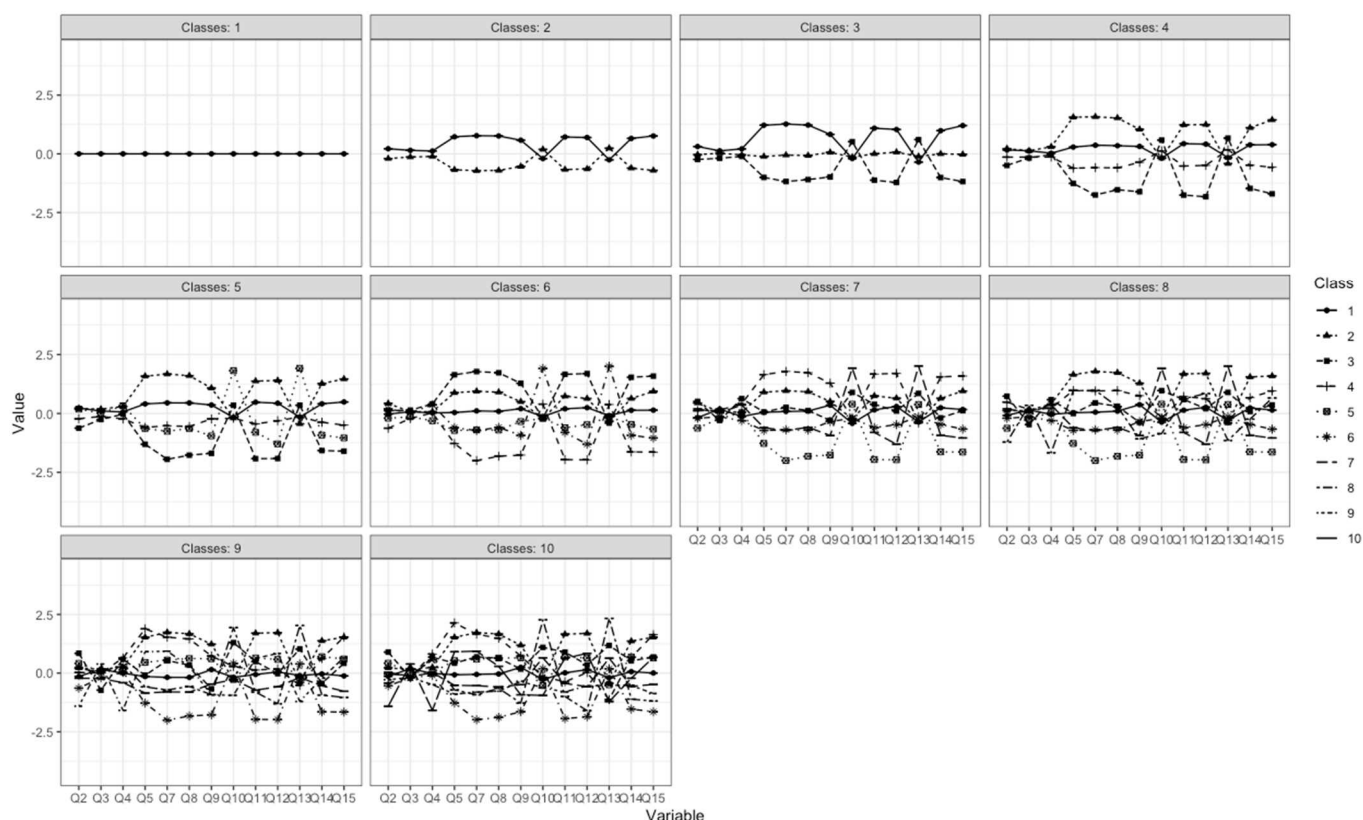
Q13：テキスト（配布物など）のレベルはどうでしたか

Q14：授業内容に対して、進む速度（進度）はどうでしたか

Q15：担当教員は受講生の理解や反応を受け止めながら授業を進めていたと思いますか

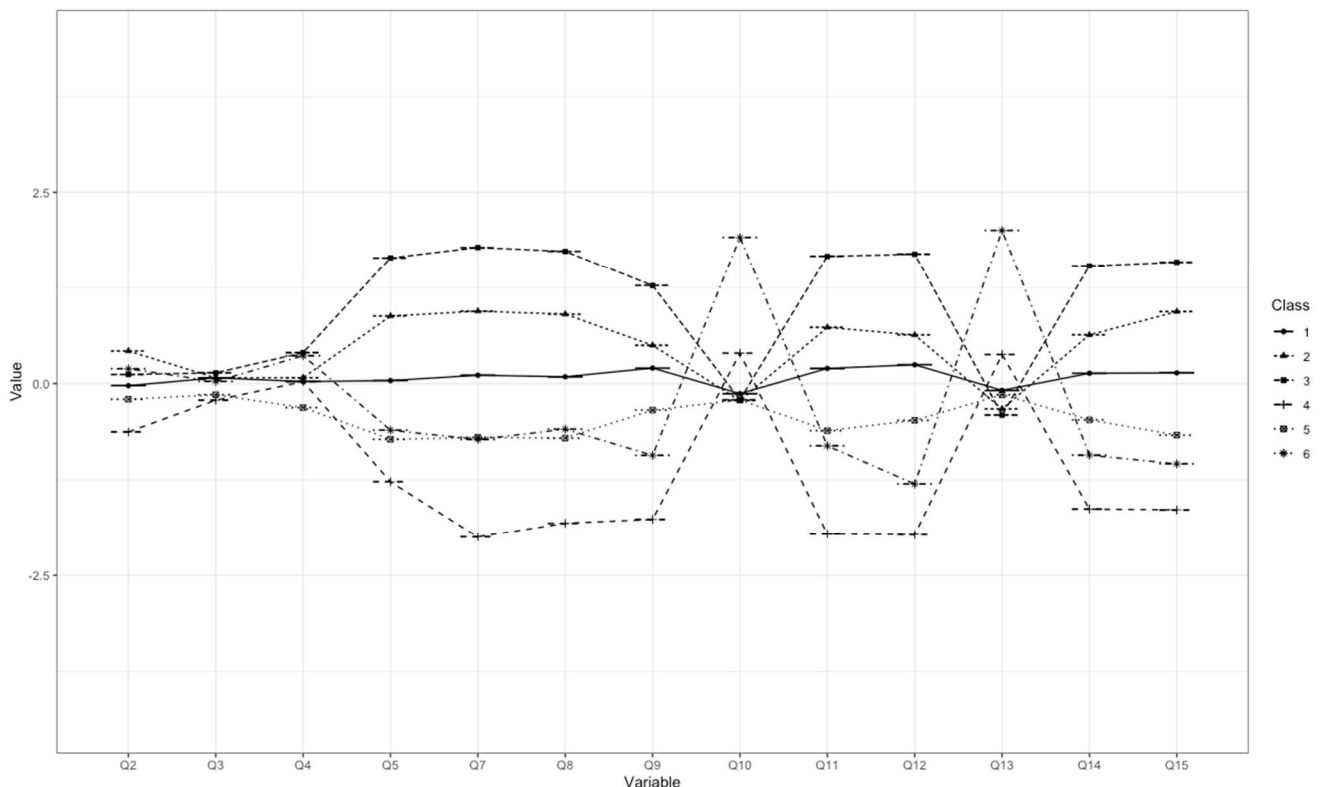
これらの項目は、得点が高いほど肯定的であると解釈します（Q10 と Q13 は、得点が高いほど難しいと感じたと解釈します）。この 13 項目の得点を基準として、潜在プロファイル分析を実行しました。

まず、339 の授業科目を幾つのカテゴリに分けることが可能かを検討しました。差し当たり、10 プロフィールまでを想定して分析を行った結果を以下に示します。



縦軸が得点（標準得点のため中央の 0 が平均値となります）、横軸が設問項目を表しています。プロフィールの数が多くなるについて、1) Q2, Q3, Q4 は、どのプロフィールでも得点に違いが見られない、2) Q5, Q7, Q8, Q9, Q11, Q12, Q14, Q15 では、得点が高いプロフィールと低いプロフィールに分類できる、3) Q10, Q13 ではこれらのプロフィールのみ高い値を示すが、そのほかのプロフィールには違いが認められない、という 3 つの観点が浮かび上がってきます。特に、6 プロフィール解からは、全項目平均的な群、得点が高い方に位置付けられる 2 群、得点が低い方に位置付けられる 2 群、Q10 と Q13 で得点が高くなる群、という特徴が顕著になり、それ以上のプロフィール解では、それらが細分化されるものの、特徴としては変化が認められないため、6 カテゴリが最適解であると考えられます。

それでは、6 プロフィールがどのような特徴を示しているのかを見ていこうと思います。
6 プロフィールのみの折れ線グラフを以下に示します。



図中の6プロフィールを構成するClassのうち、Class1に分類されているグループは、全13項目の全てが平均的な値を示した科目になります(113科目が該当)。次に、Class2に分類されているグループは、Q2, Q3, Q4, Q10, Q13はClass1と違いがありませんが、Q5, Q7, Q8, Q9, Q11, Q12, Q14, Q15においてClass1よりも得点が高い科目になります(60科目が該当)。つまり、「Q5. 意欲的に授業に取り組み」「Q7. 受講に満足し」「Q8. 授業のテーマ・領域に関心を覚え」「Q.9 授業で教員になる意欲を高める内容」「Q11. 体系的な授業」「Q12. 授業の説明のわかりやすい」「Q14. 授業の進度が適切」「Q15. 受講生の反応を受け止めた授業」という傾向がある科目であったことを意味します。この結果は、授業担当者の要因である「体系的な授業」「わかりやすい説明」「授業進度の適切さ」「受講者の反応を受け止める」ということが、受講者側の「授業への意欲的な参加」「受講の満足」「テーマへの関心」を刺激し、高めることを示唆します。そして、その傾向が、Class2よりもさらに肯定的だったのがClass3です(29科目が該当)。その反面、このClass3と真逆の傾向を示していたのがClass4になります(21科目が該当)。また、Class2のマイナス方向に対称だったのがClass5でした(91科目が該当)。最後にClass6ですが、概ねClass5と類似の傾向を示しましたが、Q10とQ13の得点が、他の5クラスよりも高い値を示しました(25科目が該当)。この2項目は「Q10. 授業が難しい」「Q13. テキストが難しい」という内容でした。つまり、授業者側の要因に加えて、授業内容自体の要因が加わることにより、受講者の授業への取り組みや満足感が高まらないことが予想されます。

今回は、項目ごとの分析ではなく、潜在プロファイル分析を用いて設問への回答プロフィールから開講受講科目を分類し、それらの背景にあるメカニズムに迫ってみました。得られた結果はかなりシンプルで、要するに「わかりやすい授業をすれば受講生は関心を持

つ』ということであり，逆もまた然りであるということです。FD委員会では，授業最後に実施する授業アンケートの他に，受講生の理解の度を把握するための中間アンケートも実施しています。「わかりやすさ」を実現するためには，受講生の理解度がどの程度なのかを把握し，伝え方や内容を適時工夫しながら授業を展開していくことが必要なのかもしれない。中間アンケートも是非ご活用ください。

なお、2024 年度前期授業アンケートの分析については、次号でお伝えする予定です。

内容について、問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：相澤（伸）（委員長）、牛山、香川、小松崎、向井
（事務担当：糟谷、村田、首藤）